今だからこそ
上伊那の仕事とくらし -Vol.3-

社会福祉法人 しなのさわやか福祉会

プラムの里　こまちの家　みぶの里

第3回の上伊那の仕事とくらしの特集は、社会福祉法人しなのさわやか福祉会です。しなのさわやか福祉会は、『地域の中でその人らしく輝く生活を支援します』を法人理念とし、プラムの里（宮田村）、こまちの家（駒ヶ根市）、みぶの里（伊那市）の3拠点の高齢者向け複合施設を運営しています。

上伊那地域の高齢者の生活を支えるしなのさわやか福祉会を取材する中で、何よりも印象に残ったのは、それぞれの職員が利用者様の「ありがとう」という感謝の言葉をやりがいに、明るく前向きに業務に取り組むアットホームで温かい雰囲気でした。

都市部と比べて高齢者の割合が高い上伊那地域を支える介護の現場について、まずは法人本部の塩澤さんにお話を伺いました。

地域の中で、その人らしく輝く生活を支援します。

社会福祉法人しなのさわやか福祉会は、在宅生活継続の為に行う生活リハビリの支援から、第二の住まいの確保、そして終末期への支援等、幅広い福祉サービスを提供しています。

仕事のやりがいについては「利用者様の笑顔が何よりも嬉しいです。一人で家にいるよりも、多くの人と出会って明るい笑顔を見せてくれる利用者様を見るとホッとします。」と語る塩澤さん。

また、担当する採用活動については「私自身も最初は介護について何も知らなかったので、とにかく分かりやすい説明を心掛けています。介護の経験や知識がなくても集合研修や現場での研修があるので安心して就職してほしいです。」と柔らかい笑顔で話してくれました。

【法人本部】塩澤さん

利用者様の「ありがとう」がやりがい!!

みぶの里で介護員を務める佐藤さんは、高校進学のタイミングで福祉分野に進むことを選択し、その後、祖父が施設にお世話になったことや身近にケアマネジャーがいたことをきっかけに福祉の中でも「介護」の分野で働くことを決めました。

仕事のやりがいについて聞くと、『生活の主体はあくまでも利用者様で、私たちは生活の支援をすることしかできないのですが、「ありがとう。」という言葉をいただくことがたくさんあり、その言葉がやりがいになっています。自分のケアについては、反省する日もありますが、「ありがとう。またお願いね」の言葉に励まされ、もっと良いケアをしようというモチベーションになってます。』と語ってくれました。休日は、友達とカフェ巡りをしたり、コロナ禍前にはカラオケに行って、気分をリフレッシュしていたそうです。

今後は、医療行為である喀痰吸引等の資格を取り、更に利用者様に寄り添ったケアを提供したいと明るい笑顔でハキハキと話してくれました。

友達と食べたパスタ♪

【入社2年目】佐藤さん

上伊那から見える、2つのアルプスに感動。

上田市出身の田中さんは、しなのさわやか福祉会の人事の方の人柄や見学に来た時の施設の雰囲気、そして上伊那地域から見える2つのアルプスに惹かれ、大学卒業後上伊那地域へ就職することを決めました。

「施設に入る前の利用者様やご家族の相談を受けて、お人柄やその人に必要なケアを把握し、現場の介護員へつなぐことが主な仕事です。私は人の話を聞くことが元々好きなのですが、利用者様は、自分が生まれるずっと前の話や歴史などの話をしてくださるので、聞いていて、とてもワクワクします。」

地元を離れた一人暮らしに不安はなかったですかという質問に対して、「寂しいと感じる時もありますが、はるかに楽しいの方が勝っています。最近は自炊がなかなかできませんが、お弁当だけは毎日作っています。」と話してくれました。

趣味は写真を撮ることで、上伊那の2つのアルプスの美しさ、四季の景色の移り変わりに感動しているそうです。「コロナ禍で人が多い観光スポットには行けませんが、自分で穴場のスポットを探し、撮影しています。いつかは利用者様から聞いた上伊那の歴史と自分が撮影した写真をまとめて自分だけのマップにしたいと思っています。」と終始穏やかな口調で話してくれました。

【入社2年目】田中さん

田中さんが撮影した写真

LINE登録
上伊那の就職情報も発信しています。▶

■しなのさわやか福祉会の取材を終えて

今回しなのさわやか福祉会を取材させていただき、様々な複合的な福祉サービスを提供していること、また利用者の方やご家族への相談を十分に行い、一人一人に寄り添ったケアを行っていることが印象的でした。そして何よりも取材させていただいた職員の方、それぞれが利用者様からの「ありがとう」の言葉を胸に、明るく前向きに仕事に取り組んでいる姿を見て、アットホームな職場の温かさを感じました。